

各関係機関長様

熊本県病害虫防除所長

病害虫発生予察特殊報第2号について（送付）
このことについて、発生予察特殊報第2号を発表しましたので送付します。

平成16年度病害虫発生予察特殊報第2号

平成17年1月17日
熊本県病害虫防除所長

1 病害虫名：キュウリ黄化病

2 発生作物：キュウリ

3 病原ウイルス：キュウリ黄化ウイルス
(Cucumber yellows virus: C u Y V)

4 発生確認の経過

平成16年11月中旬、球磨郡のキュウリ（品種：エクセレント1号）で葉が黄化している株が発生した。熊本県農業研究センターにおいてRT-PCR法によるウイルス検定を行ったところCuYVが検出された。次に12月中旬、同ハウス内から葉脈間に黄緑色、不整形の小斑点が形成された葉を採集し、ウイルス検定を行ったところ、再びCuYVが検出された。両採集葉について、愛媛県農業試験場に同定を依頼したところ、CuYVによるキュウリ黄化病であることが判明し、本県での発生を初めて確認した。

5 病徴（写真、参照）

はじめ葉脈間に黄緑色、不整形の小斑点を多数生じる。病勢が進行すると、葉脈を残して葉全体が黄化する。末期には、葉が硬化して、葉縁が下方に巻く。株の萎縮や果実での症状はみられないが、草勢が衰弱し側枝の発生が不良となるため、減収する。

6 伝染方法

本ウイルスはオンシツコナジラミによってのみ媒介される。ウイルス保毒虫の媒介能力は獲得後6日以内で、経卵伝染は認められていない。なお、汁液伝染、種子伝染、土壌伝染はしない。

7 CuYVの自然感染が確認されている主な植物

ウリ科：キュウリ、メロン、カボチャ、トウガン

キク科：ノボロギク、ヨモギ、タカサブロウ

アブラナ科：キャベツ、イヌガラシ

8 国内での発生状況

昭和52年に埼玉県および群馬県のキュウリで葉が黄化する症状がみられ、原因究明が行われた結果、昭和54年にキュウリ黄化ウイルスによるキュウリ黄化病であることが明らかとなった。昭和54年から56年にかけて関東～東北、四国でキュウリやメロンにおいて本病の発生が確認された。近年、既発生地域の一部において多発しているが、大部分では発生をあまりみなくなっている。なお、九州での発生は確認されていない。

9 防除対策

- (1) 発病株は伝染源となるので、見つけしだい直ちに抜き取り施設外に持ち出し埋没処分するか、ビニール袋等に入れて完全に枯れるまで密封処理する。
- (2) 施設開口部に防虫ネットを設置し、媒介虫の侵入を抑制する。
- (3) 黄色粘着トラップを施設内に設置し、媒介虫の早期発見に努める。
- (4) 媒介虫の薬剤防除は発生初期から行い、薬剤抵抗性の発達を避けるためローテーション使用する。また、薬剤は、登録の範囲内で、十分量を植物全体にムラなくかかるように、丁寧に散布する。(注意：農薬使用にあたっては、使用方法、使用時期、総使用回数等を確認する。)
- (5) 施設周辺及び内部の雑草は、ウイルスの伝染源、媒介虫の生息・増殖場所となるので、除草する。
- (6) 栽培終了時は、媒介虫が施設外に飛び出さないように、ハウスを密閉して蒸し込みを行い、害虫が死滅してから片づける。
- (7) 疑わしい症状が発生している場合は、病虫害防除所、各農業改良普及センターに連絡する。



写真：葉脈間に黄緑色、不整形の小斑点が多数できた葉。



写真：葉脈を残して葉全体が黄化し、葉縁が下方に巻いた葉。

特殊報は、病虫害防除所のホームページ（ <http://www.jppn.ne.jp/kumamoto> ）に公開している（カラー写真使用）。